



森の妖精 Zizi も 1日も早いコロナの終息を願っています

タイトルの写真8あきる野市 深沢 小さな美術館「森の妖精 Zizi (ジイジイ)」

令和2年秋季号 発行者／網代和夫 編集／あきる野市町内会・自治会連合会 広報部会



▲左から村木市長、網代会長、野口副会長

昨年10月の台風19号で連合会が提唱して組織をあげて取り組んだ被災会員へ
の見舞金募金活動に対し、8月26日あき
る野市長より感謝状が授与されました。
当日は、連合会から網代会長、野口
副会長、あきる野市側からは村木市長
はじめ幹部職員が出席しました。
この募金活動概要は会報40号(既報)
については、あきる野市でかつて経験し
たことの無いような大きな被害に直面
し、連合会として被災された会員の皆様
に少しでも寄り添い支援が出来ればと
昨年12月から今年1月末まで取り組
みました。そして、300万円余りの心のこ
もった募金が集まりました。

募金は大規模被害、その他被害合わせ
て63件の被災された会員世帯に見舞金
としてお届けしました。また、残金及び
産業祭と市役所に設置した募金箱への募
金を合わせて35万円余りをあきる野市へ
台風災害支援金として寄贈しました。

被災会員へ あきる野市より感謝状の授与

あきる野市長 村木 英 幸

あきる野市町内会・自治会連合会
が提唱して各町内会・自治会で取り
組み、被災会員へ見舞金を贈呈する
と共に、市に対しても台風災害支援
金を寄贈いただき誠にありがとうございました。
今回の活動で連合会と
してまとまりがあること、協力体制
がしっかりしていること、さらに、
会員間の助け合いの精神が強いこと
に大変感動しました。人の心が希薄
になっていく現代社会にあつて「向
こう三軒両隣」の大切さを基盤に、
連合会の益々の発展をご祈念申し上
げます。

連合会長 網代 和 夫

あきる野市のホームページにアッ
プされた『令和元年10月 台風第19
号 災害記録』を見ますと自然災害
の恐ろしさをあらためて痛感します。

災害の対応については、町内会・
自治会を始め防災・安心地域委員会、
行政、消防団等の連携により、人的
被害0件という結果をもたらし、社
会福祉協議会を中心としたボラン
ティア等の方々の支援もあり、早期
に瓦礫等の片付けが実現できました。
善意の募金については、前述のと
おりであり、深く感謝申し上げます。
人づてではありますが、被災者の方
から、会員の団結力への称賛と『町
内会・自治会に入って良かった』
というお声があったことを記させて
いただきます。

余 瀝

ここ数年、世界で、日本で、
ジェンダー平等が人類の実現
すべき大きな課題として論議
されています。とりわけコロ
ナ禍の中で、その勢いが更に
増えています。男女が性の違
いを認めつつ異性の尊厳を守り、互い
に人間として平等であることを社会的
にも政治的にも理念的にも実生活でも
家庭の中でも実現し実践する、これは
人類史の中で到達した理念です。▼
ジェンダーは、長い歴史の中で社会的、
政治的、文化的に作られた性差です。
いわば作られた男らしさ、女らしさで
す。男性だから、女性だからと生き方
を押し付けられることなく、だれもが
人間としての尊厳を守り、自分らしく
自由に生きられる社会の実現が求めら
れます。▼男女平等のレベルを示す
ジェンダーギャップ指数で、日本は残
念ながら149か国中110位です。
これが日本の現実です。政治の世界で
も企業の中でも学問の世界でも労働の
現場でも男女の差が歴然としてありま
す。▼記憶に新しい象徴的なことがあ
りました。例の特別定額給付金の受取
人を世帯主としたことです。戦前の封
建的な家制度の戸主を引き継ぎ、法律
の裏付けもない世帯主にのみ支給する
という非民主的なことが行われました。
このことは様々な困難を抱えた人
に大きな負担をもたらしました。本来
であればだれもが受給者であるべきで
す。▼あきる野の職場や学園や地域で
ジェンダー平等が一步でも二歩でも進
んだらこんなに素晴らしいことはありません。

多西地区 草花子育て応援サロン 横溝 悦子

草花子育て応援サロンは平成29年1月29日発足し、今年で4年目に入りました。草花町内会・西ヶ谷戸町内会の協力を頂き会場は草花会館を使用しています。

子育て中の親や出産を控えた妊婦さんの悩みや不安の解消、ママの友達づくり、親がゆとりを持って子育てが出来るよう、又気分転換を図るために、活動内容は月1回(第1木曜日)、参加者は0歳〜3歳までが多いです。何をするかは決めず、お母さんの話し相手になつたり、子どもたちと遊んだり、8月はプール遊びがしたいとお母さん方より要望がありました。この暑さの中で、両町内会から役員の方々に応援を頂き、大きなテントを張り、子どもたちはその中でプール遊びができ、大喜びでした。又、草花神社にも散歩に出掛け遊び場に使っています。12月には新型コロナウイルスの終息を祈りつつ、ミニクリスマス会を予定しています。

スタッフは近所から4名、他の地区から2名。時々町内会長さん、民生委員さんも参加頂いています。子育て応援サロンを通して、仲間や子どもたちが心から、「この街に住んで良かったと思える笑顔あふれる地域に」少しでもお役にしたいと思いい活動しています。

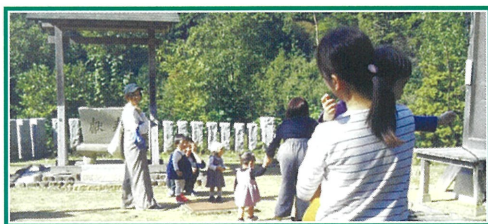
* この街に住んで良かったと思える笑顔あふれる地域に!

草花町内会と西ヶ谷戸町内会の共同応援事業

草花子育て応援サロンは平成29年1月29日発足し、今年で4年目に入りました。草花町内会・西ヶ谷戸町内会の協力を頂き会場は草花会館を使用しています。



▲スタッフの皆さん 草花会館にて (H29年1月)



地域交流で笑顔に!!

* 秋川にもっと親しもう

増戸地区 14自治会の共同事業

増戸地区 大上自治会長 橋本 勉

昨年8月、増戸地区14自治会の共同事業として、標記イベントを山田大橋付近で挙行了しました。

当日は、川遊びの先生として山崎充哲氏に来ていただき、ライフジャケットを着用して浮くことの楽しさや、沢山のたらい船や、脚立の上から2.5メートルの深さに飛び込むことなどを行いました。

秋川に子供の頃から親しんでいる者にとっては、何ということない遊びです。しかし今、川で遊ぶ子供たちはすっかり減少しました。これは、川遊びには危険が伴うこと、一般的な遊び場でなくなったこと、異年齢集団で遊ぶというセーフティネットがなくなったことなど、様々な理由が考えられます。

しかし、私たちは、「危ないから子供を遠ざける」のではなく、「夏の川は気持ちいい」ということを、保護者や子供たちにわかってもらいたいという思いから、敢えて企画し実行しました。

なお、助成金でライフジャケットを80着購入しました。これは、増戸小に保管しており、青少年育成のために、借りられることになっています。

子供は自然の中で好きなことに時間を費やしながら、体内に意欲を培養させていきます。地域全体で応援したいと思います。



▲ライフジャケットを着用しての川遊び

* “新型コロナウイルス”三密さけての活動

大塚自治会

東秋留地区 大塚自治会 石関 京子

大塚自治会では一人でも多くのご高齢者と自治会員に交流を持っていただく為、毎年秋に芋煮会と長寿を祝う会を兼ねた大きなイベントをおこなっています。

当日は班長さんをはじめ多くの会員の皆さんが参加し、朝から準備したアルファ化米弁当や豚汁などを食べ、楽器演奏に合わせて合唱や体操をしながら楽しい時を過ごします。

しかしながら今年はコロナ感染拡大防止のために残念ながらこの行事を中止せざるを得なくなってしまいました。毎年芋煮会で使う里芋は、世話人のメンバーに作っていただいています。イベントは中止でもご高齢者、会員にその里芋を食べて元気になってもらいたいという思いから、10月18日に毎年会場のもくせい公園にて、三密に気を付けながら短時間で販売を行いました。売上金は、豪雨災害地への見舞金として全額寄付しております。

大塚自治会は世帯数が多くはありませんが、歴代役員の皆様が世話人として自治会活動に協力してくださっています。人と人とのつながりを大切にし、お互いに声を掛け合える地域にしていきたいと考えています。



▲昨年開催の様子



▲今年開催の様子

12月 強化月間

救急医療 情報キットの 募集強化月間

毎年12月は恒例の『救急医療情報キット』の募集強化月間です。

これは緊急時・災害時に援助の必要な高齢者や障がい者など万が一に備えたい人の安全で安心な暮らしを支援するためのものです。具体的な申し込み方法は、各町内会・自治会の回覧等をお読みいただき、詳細は各町内会・自治会にお尋ね下さい。



編集後記

令和2年度広報部会新年会、新年会は新型コロナウイルス禍の中、大変なスタートになりました。今期の会報編集につきまして、親しまれ読まれる紙面作りを第一の取り組み方針として進めています。各地域にある情報をもとに足を運び資料を集め、会員の皆様に満足頂けるよう広報部会メンバー全員で情報共有と意見交換を行い、ここに会報42号として編集を終えました。表紙には、足を運んだ五日市深沢地区にある小さな美術館「森の妖精(NN) (ジイジイ)」を掲載させていただきました。

今回ご多忙の中、快く執筆にご協力して頂いた皆様に深くお礼申し上げます。

広報部会副会長 柴原 光雄